第9回 加賀温泉駅施設整備 検討委員会

平成31年4月22日(月)

1.加賀温泉駅 新幹線駅舎デザインについて

(1) 駅舎デザイン提示から最終デザイン決定までの経緯

年月日	内容	備考
平成29年11月20日	鉄道・運輸機構からデザイン案3案提示	
平成29年12月11日 ~平成30年1月19日	市民アンケート	
平成29年12月1日	第5回加賀温泉駅施設整備検討委員会	
平成29年12月17日	北陸新幹線加賀温泉駅シンポジウム	
平成30年2月20日	第6回加賀温泉駅施設整備検討委員会	推薦案を選定
平成30年3月1日	鉄道・運輸機構に対し推薦案を回答	
平成31年4月17日	鉄道・運輸機構のパンフレット (新幹線駅舎 デザイン掲載)配布	最終デザインの 公表

外観デザイン (当初)



外観デザイン (最終)



(2) 付帯意見について

鉄道・運輸機構へ要望した付帯意見

- ①駅舎中央部(拡幅部)以外の外壁の色彩に配慮を頂きたい。
- ②駅舎中央部の意匠が、福井側の一般部に拡がるように配慮を頂きたい。
- ③加賀市らしさをアピールする為、重要伝統的建造物群保存地区で見られる赤瓦を用いるよう検討頂きたい。
- ④駅舎正面(南側)と同様、在来線側(北側)にも縦格子等のデザインを踏襲して頂きたい。
- ⑤誰もが利用しやすいユニバーサルデザインに十分配慮頂きたい。

(3) デザインの変更点について

【駅舎外観】

①色彩の変更



②中央部の意匠を、 福井側の一般部に 拡げる (別紙 「立面図」 参照)

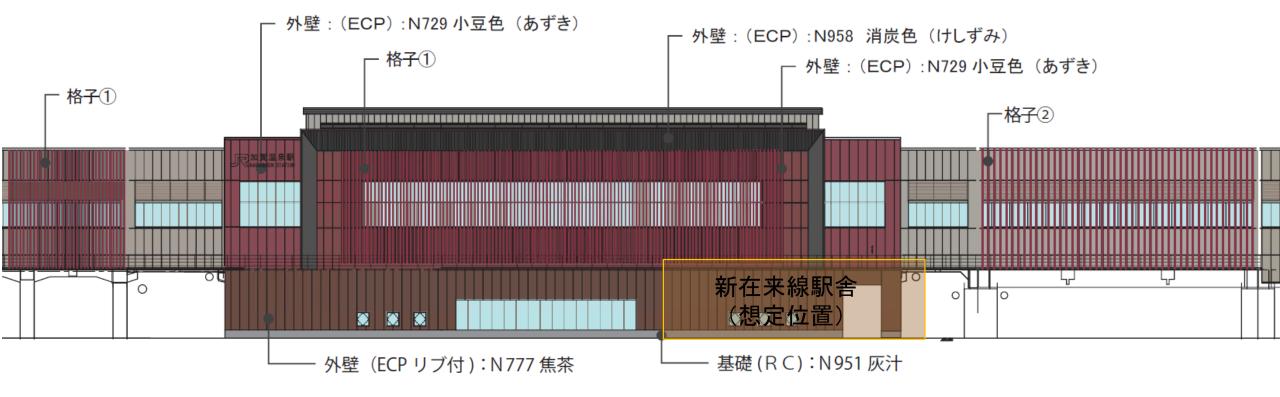


【駅舎内観】



在来線

④駅舎正面(南側)と同様、在来線側(北側)にも縦格子等 のデザインを踏襲



※別紙「立面図」参照

〈駅舎北側立面図)

⑤ユニバーサルデザインへの配慮(参考写真)



階段の両側2段手すり・段差明示タイル



音声付き触知図構内案内板



ホーム上の旅客の安全に配慮した安全柵



授乳などにも利用可能な多目的室



主要な案内サインは4カ国語表記



車椅子使用者を始め様々な方が利用できる多機能トイレ

2. プロポーザル最優秀者による提案内容説明



駅舎・赤瓦の屋根・日本的回廊と庭園が一体になって創り出すことにしかない風景

駅舎・赤瓦の屋根・日本的回廊 と 庭園 が一体になって創り出す ここにしかない風景

業務実施方針

●取組体制

構造・設備については本計画に相応し い技術者の協力を得ながら、管理技術 者・意匠主任が業務全体を統括します。

●設計チームの特徴

多数あるとともに、北陸新幹線金沢開 業時に2都市の駅の広場や駅舎の設計 において、景観・意匠設計の協力事務 所として携わった実績もあり、その経 験を本業務に活かすことができます。

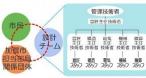


図-1:取組体制

●業務フロー

業務遂行上の諸条件や審査委員会の指 摘事項を反映して基本設計案をまとめ、 模型やCGで市民に説明し、関係者全 員のコンセンサスを得ます。次に構法 材料・設備等の詳細検討を行い、積 多くの人で賑わう公共施設等の実績が 算・申請業務までを含めて設計期限内 に終了するように業務を進めます。 特に本事業では駅舎・都市施設・駅前 広場が一体になった成果が求められ、 鉄道事業者との景観意匠や動線計画等 についてのエリア・マネジメントに対 しても、これまでの経験を活かして積 極的に取り組みます。

設計工程計画

1年間の設計期間において、行政・市 民のコンセンサスを得ること、鉄道事 業者との調整、関係法令に関わる事前 協議等を円滑に進めることが工程管理 上最も重要になります。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		基本	設計				実 施	設計			
設計条件	整理	基本設計	楽の検討	まとめ	技術	検討	実施設	計図の作成	積算		
指導課・消防協議 ①				建築審査:	指導	課・消防協議 ②			申請書作成	計画通知審査	
•		•	•		•		鉄道	事業者・関	係団体との	協議	
•				•			● 市長	説明(模型	・CGによるれ	かりやすい)資料)

図-2:設計工程案

■永く愛される加賀市のシンボル(取組の基本方針)

●駅からはじまる街づくり

日本の都市は城下町の外れに鉄道駅が生まれ、都市の原風景となる駅前広場に建 旧市街地と新市街地の二極化による発展をと つ建造物は、半世紀後に見ても建 げました。そして今日、駅は交通の結節点と 築意匠としての価値が変わらない してだけでなく、新しい都市文化の発信地と ものでなければなりません。その して街づくりの重要な役割を担っています。 時代の流行りの新奇性を追求した また、駅は最も公共性が高い場所であり、地デザインは、その瞬間におけるイ 域への影響力が絶大であると共に、鉄道を介 ンパクトは強いものの、時間(歴 して他都市とつながるという象徴的なイメー 史)に耐えない場合も多くありま ジを持っています。また、街や人々との「出す。本計画では建築の歴史を参照 会いの場」であり、また「別れの場」であり、し、現在も時間に耐えて魅力を発 利便性や経済性を超えた ドラマチックなシー し続けている歴史的建築物やモダ ンが生まれる場でもあります。このような潜 ニズム建築の本質を鑑とし、温泉 在力をもつ現代の駅は、城に代わって街のイ **地らしい佇まいや空間演**出をテー メージを象徴し、新たな歴史を担う場所とな マに、プロポーション、構造、材 ることから、本案にはこれからの加賀市が発質、色、スケール感などを究めて情のある赤瓦の屋根とすることで、のトップライト形状を選びました。 すべき真のメッセージを託していきます。 いきます。

場を設ける必要性はなく、むしろがる緑豊かなシーンを特徴とし、 樹木や草花で演出された緑豊かな 他の駅との違いをアピールします。 駅前シーンをつくって来訪者を迎 (加賀市ガーデンシティ構想と連携) ●他都市と異なる駅前のランドスケープ 駅舎、ガレリア、コロネード、緑本的な落ち着いた雰囲気にします。

■世界にアピールできる駅前風景の創出

地帯が一体になった魅力を発する 加賀の地域性を意識した赤瓦の屋 ランドスケープを形成します。次 根の建築の姿を、昔からそこにあ にガレリアとその両側のコロネー ったと錯覚するような表現に昇華 ドの姿を、寺院の本堂と回廊の関 させます。SNSで世界に映像が 係に見立てます。ガレリアは木組 配信される時代において、**画像を** の構造と加賀の赤瓦の屋根で表現 見た瞬間に加賀温泉駅とわかる特 し、コロネードは繊細かつリズミ 徴をもたせることで、他都市の新 カルな木仕上げとすることで、日 幹線駅との違いをアピールします。

●緑豊かな駅前広場

●赤瓦の屋根の風情ある佇まい

時間(歴史)に耐える建築意匠を

新幹線駅舎は和風の弁柄格子が連 目指します。伝統的風景の引用か 続する案になりました。この巨大 ら頂部に越屋根をのせることも検 な都市の屏風の前に建つガレリア 討しましたが、下部の賑わい空間 の姿として、本案では加賀の伝統 を半屋外的な明るい空間にするた や温泉地のイメージを継承する風 めに、多雪地帯の雪割的イメージ

●庭園を眺め、散策する楽しさ ガレリア周りの緑地帯には、高木・中木・低木、常緑樹・ 落葉樹、季節の草花などを当地の植生に合わせて植栽し、 温泉地らしい茶庭的風情のある庭園にします。また、広場 の他の緑地帯も含めて、広場全体が緑豊かなイメージに映 るようにします。(参考写真1) パース1:樹木・草花、赤瓦のガレリア、和風のコロネード等で加賀温泉駅の独自性を世界にアピール 駅を降りた人の多くは車に乗り、 えます。他の新幹線駅前広場では 広場を通過して街に出る人が少な 都市化したビルの風景が広がりま いため、ガレリアの向こう側に広 すが、本駅ではガレリア越しに広

加賀進景駅

パース2:緑豊かな駅前シーンが来訪者を迎える



- 新幹線駅舎と駅前広場・ガレリアそれぞれの中心線がずれていることを -調整するために、この範囲まで駅舎デザインの色を伸ばすことを提案する

パース3:ガレリアのステージ上は日常的 には庭園や池を楽しむ休憩ロビー



参考写真1:池と植物による 憩いの場(金沢駅西口広場)



永く愛される加賀市のシンボル (取組の基本方針)

駅からはじまる街づくり

- ・交通の結節点、新しい都市文化の発信地
- ・利便性や経済性を超えた象徴的なイメージ (他都市と繋がる出会と別れの場)

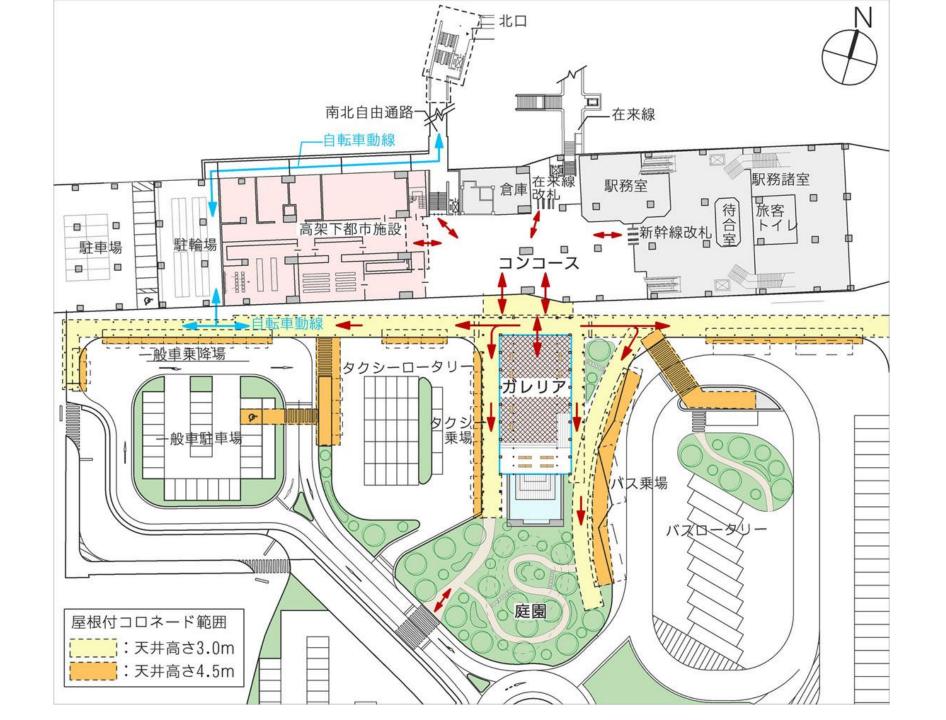
時間に耐える建築デザイン

- ・都市の新たな原風景
- ・半世紀後に見ても価値が変わらない 時間に耐える建築意匠
- ・温泉地らしい佇まいや空間演出



世界にアピールできる駅前風景の創出

- ・ガレリア越しに広がる緑豊かなシーン(他都市の新幹線駅との違いを明確に)
- ・画像を見た瞬間に加賀温泉駅とわかる特徴
- ・駅舎・赤瓦の屋根・日本的回廊と庭園が一体になったここにしかない風景
- ・ガレリアとその両側のコロネードの姿を寺院の本堂と回廊の関係に見立てる (ガレリアは赤瓦の風情ある佇まい、コロネードは日本的回廊)
- ・駅舎壁面の和風表現と呼応



■木組みが魅力の加賀市のエントランスホール(ガレリア)

●ガレリアの構造

た。また、この構造表現は寺院本堂 成立しています。 の小屋組や教会の身廊・側廊を連想

16m幅の大空間を、両端部と3m させるとともに、温泉街的和風表現に 内側の柱で支えることで構造スパン も通じるものになります。尚、この軽 を小さくし、複雑かつ軽快な木組み 快な木構造は、両側にある鉄骨造のコ の面白さが堪能できる空間にしまし ロネードに水平力を負担させることで

●ガレリアの環境計画

す。風が通り抜けない室内状態であ 屋根形状にします。

堆雪スペース

バス

下部のガラスを4月から11月の間 れば、滞留者がコートを着ていればイ は開放しておくことで、居住域では ベント等の開催も可能であり、暖房設 風が通り抜けます。仮に無風状態に 備の費用が軽減できます。ただし長時 なっても、大空間内に発生する上昇 間の着席講演会等を想定する場合には 気流で熱気がトップライトの両端部 床暖房設備等を検討する必要がありま から抜けていきます。一方、12月 す。また、ガレリアやコロネードの屋 から3月までの冬季間は下部のガラ 根は全て堆雪方式とし、落雪事故をな



図-3:ガレリア周りの断面イメージ(環境計画)



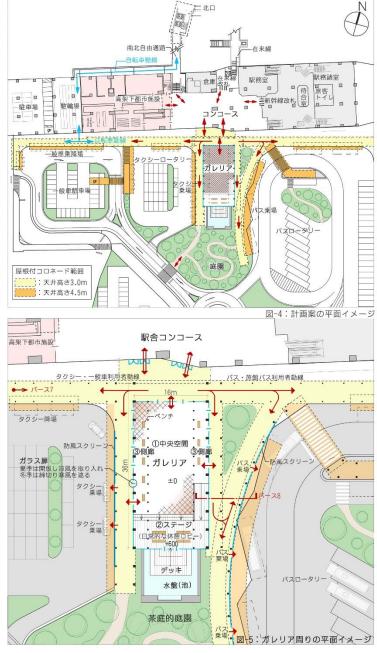




バス乗場側

パース6:ガレリア周りの断面イメージ(日常シーン)

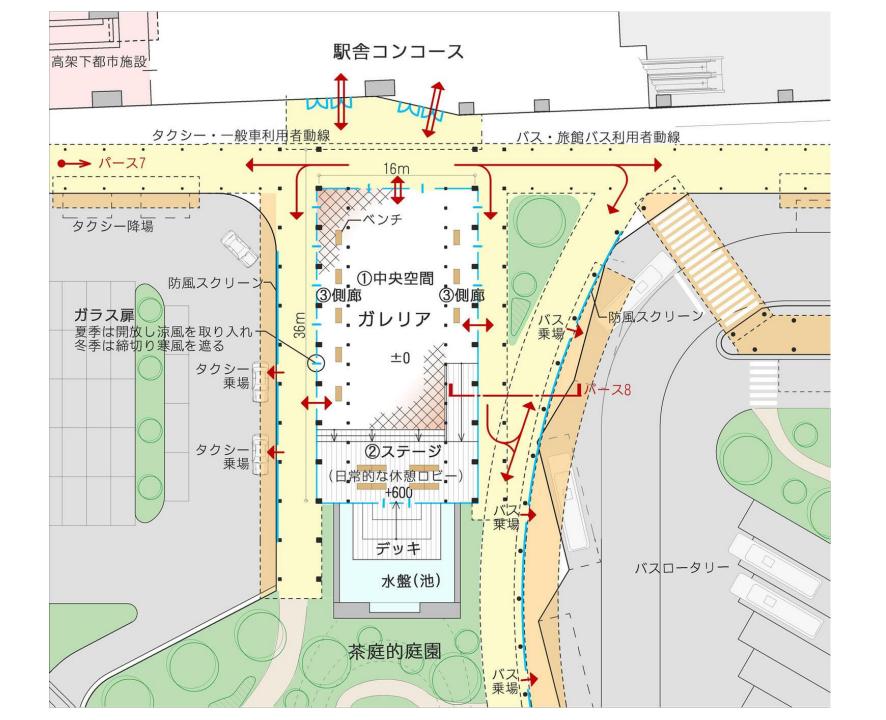
タクシー乗場

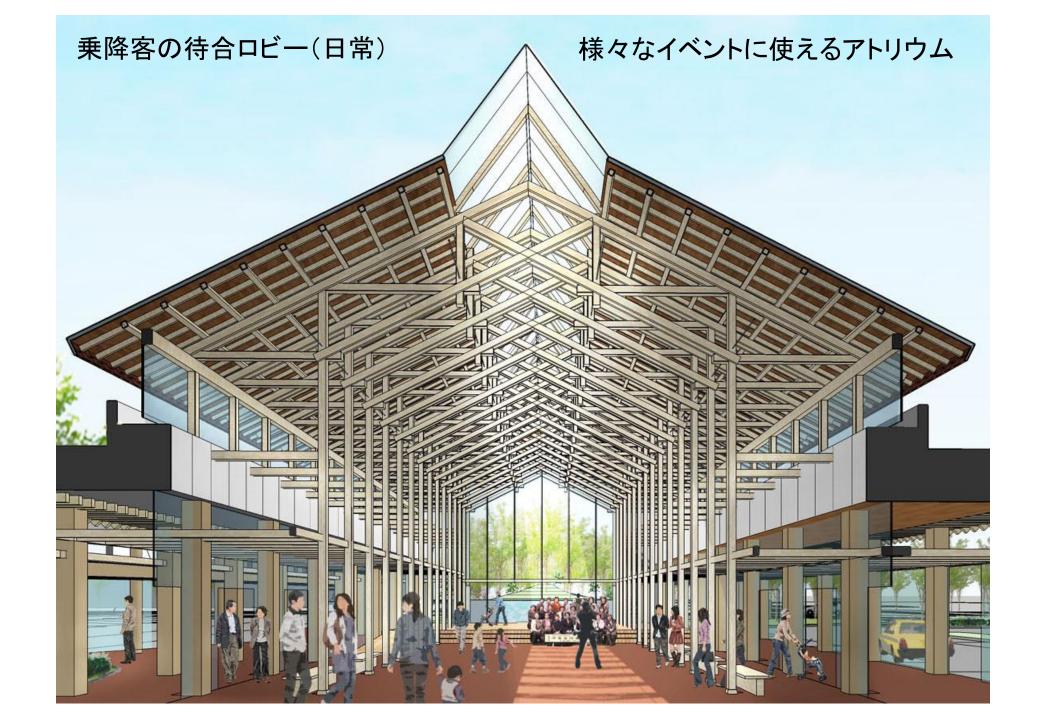


ガレリア周りの断面イメージ(日常のシーン)



バス乗場側 タクシー乗場







ガレリアのステージ上は庭園や池を楽しむ休憩ロビー(日常)

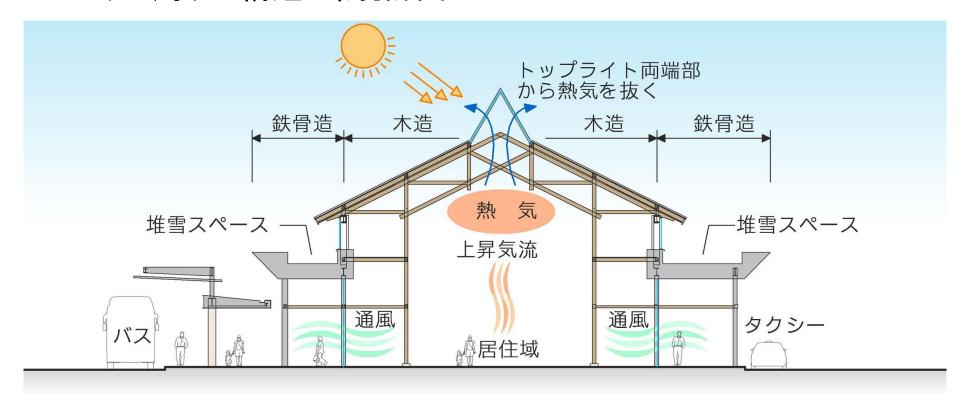


ミニコンサートで賑わうガレリア



展示会で賑わうガレリア

ガレリア周りの構造・環境計画



- ・軽快な木組みの面白さ
- ・温泉地らしい和の構造表現
- ・居住域は風が通り抜ける(冬はガラス戸を閉める)
- 夏の熱気はトップライトから抜ける
- ・除雪費の掛からない屋根(堆雪方式)



パース7:コロネードからガレリア・タクシー乗場を見る

■ヒューマンスケールの日本的回廊(コロネード)

●機能的で美しいヒューマンスケールの回廊

新しい駅前広場のコロネードの天井高さは、バスや緊急車両が通 過できるように 4.5mになっている事例がほとんどです。しかし コロネードの幅が4.0mで、天井高さが4.5mの屋根では、外観と して不安定に見え、風をともなう雨や雪が多い北陸では雨除けと して有効ではありません。そこで、本案では人が通行する部分の 天井高さを 3.0mに抑えて外観を安定させ、雨除け効果を高め、 歩く人々の身長に近づけることで寺院の回廊を巡る感覚に近づけ ています。(金沢駅西口広場の方式-参考写真2)

●バス・タクシーの乗降・通過スペースのみに高い屋根を付加 天井高さ 3.0mに低く統一された屋根に対し、乗降時に雨に濡れ ないように車道部に突出した部分に限定して高い屋根庇(天井高 4.5m) を上部に付加します。こうすることで、コロネードのコ ストを抑え、心理的・機能的課題を解決しながら、本堂(ガレリ ア)の両側に低い回廊(コロネード)が巡るイメージの景観をつ くります。また、北陸では冬季の雨風を防ぐためにバス・タクシ 一待ちスペースの暴風スクリーンは必需品であり、ガラスを上下 で固定するためにも 3.0mの低い天井の設定は適切です。

●日本的回廊シーンの演出

温泉地らしい日本的回廊シーンをつくるために、天井・柱・側板 の仕上げに木材を使い繊細かつリズミカルに演出します。 また、 床仕上げ材は赤瓦の古色とアースカラーを混ぜた色のタイルとす ることで、ガレリアの赤瓦、駅舎壁面の弁柄色と呼応させていま す。床や側板部に板状の九谷焼を入れたり、その他地元産材の利 用も検討します。



パース8:バスロータリーのバス乗場

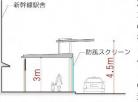


図-6:一般車乗降場・タクシー 降車場の断面イメージ



図-7:バス乗場の断面イメージ



と防風防風スクリーン(金沢駅西口広場)

■温泉地らしい和の演出が楽しめるにぎわい空間(高架下都市施設)

●観光交流施設

映像PR

加賀のおもてなしのスタート地点として、ま 中央部に通路を配置し、線路側に た温泉地らしい雰囲気を醸しだすために、他 コンビニやトイレ等(上部機械室) の新幹線駅との違いがアピールできるシーン を、駅前広場側にインフォメーショ をつくります。まず改札口を出た時のシーン ン・待合ロビー・伝統工芸展示・ として、天井高さ5mの立面に低い軒や庇を PR映像等のコーナーを設けます。 付加することで和風の茶店的イメージを演出 中通路と広場側スペースは天井高 します。その上部に小さな2階床を設け、そ さを活かして見通しの良い透過性 の背後の壁面に季節ごとに取り換え可能な出 のある空間とし、施設内を巡りな 誘うゲートの役割も果たしています。



●平面計画と空間演出



図-9:高架下都市施設の平面イメージ

観光交流施設

パース12:2倍の広がりで感じられる地下自由通路

■ミラー効果を活かして広く感じる地下自由通路

狭く閉鎖的な地下空間の印象を改善す ることが最重要課題であり、本案では 片側の腰壁上部を鏡面とすることで、 通路の広がりが2倍に拡張して感じら れる手法を用います(防犯上も有効)。 また、ポスターや子供の絵を見ながら 楽しく歩けるように、鏡面に対向する 壁面をショーウィンドウにします。

WW

天井には繊細なリブを連続させて優し く温かいイメージを演出します。尚、 自転車については、地下自由通路では 歩行者と同じルートを通ることになり ますが、階段手前から右側に曲がって スロープを登り、駐輪場を通過して駅 の反対側に出ることを想定しています。



お出迎えの2階特設ステージ

機能的で美しい、ヒューマンスケールの日本的回廊(コロネード)

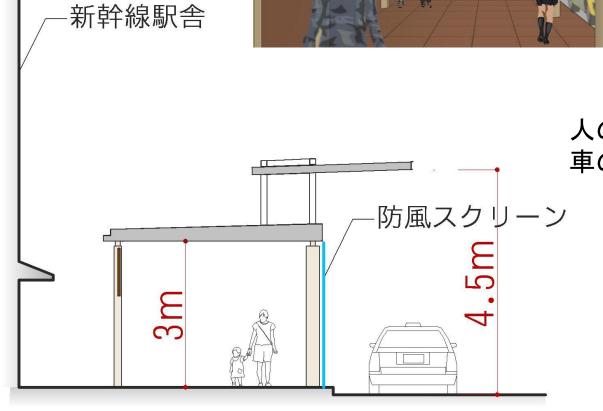


- ・温泉地、伝統工芸の街らしい和の表現
- ・木の仕上材を使い、繊細かつリズミカルに

タクシー乗降場 一般車乗降場

タクシー降場





人の通行部分は3.0mに抑え 車の乗降部のみを4.5mにする

•外観の安定感

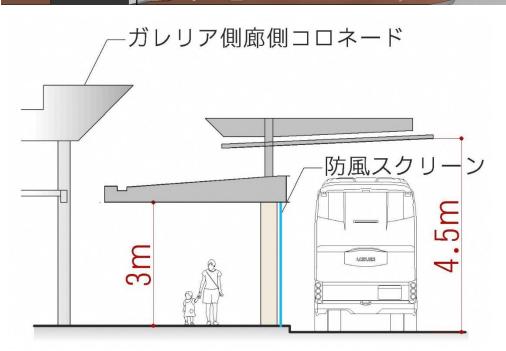
・雨除け機能の向上

•身体的スケール感

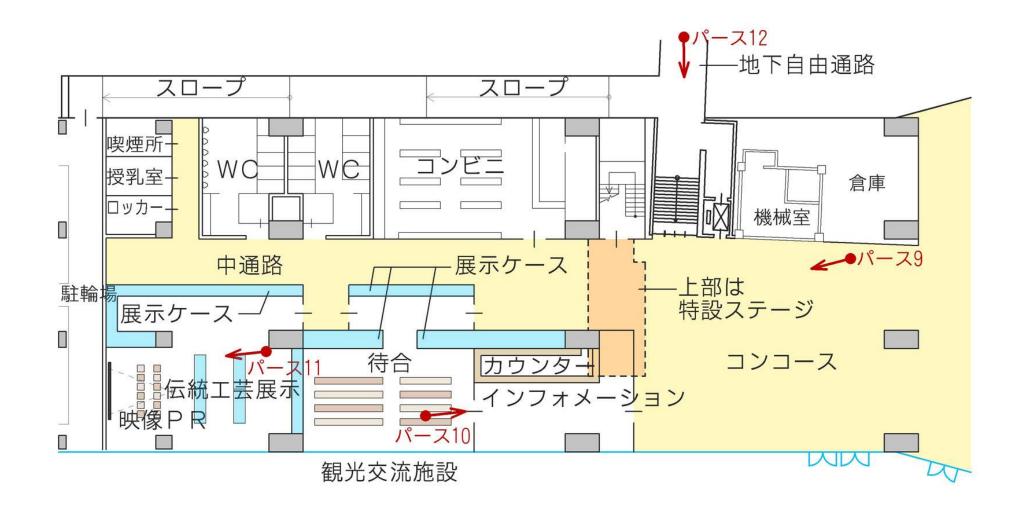


バス乗場周り

金沢駅西口広場の バス乗場(参考写真)







高架下都市施設の平面イメージ

パース9:駅のコンコースから観光交流施設側を見る



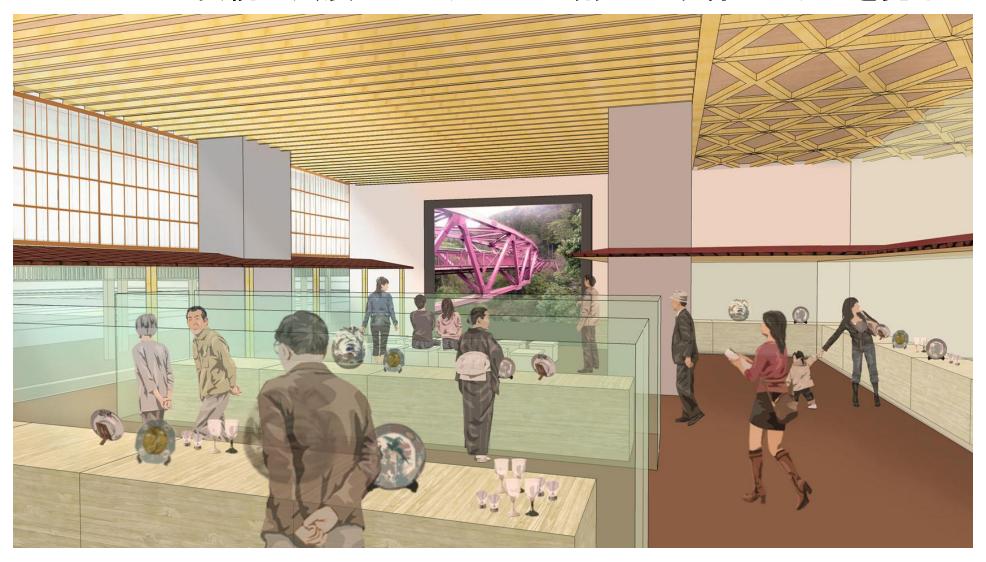
- ・温泉地らしい和風の茶店的イメージが来訪者を迎える
- ・2階の小さな床は、お出迎えの特設ステージであり、 背後の観光交流施設へのゲートの役割

パース10:待合からインフォメーション側を見る



- ・新幹線ホームを支える構造梁部以外は 5mの天井高さの全体が見通せる透過性のある空間
- デザインテーマは和風モダン

パース11: 伝統工芸展示コーナーから観光PR映像コーナーを見る



・展示ケース、大型映像スクリーン

地下自由通路



ミラー効果を活かして通路の広がりが2倍に拡張して感じられる

3. その他

今後の加賀温泉駅周辺の工事等に関するスケジュール

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
新幹線駅舎 (鉄道・運輸機構)	高架橋工事 建築工事 (信	────────────────────────────────────	建て方、内装工事	北 事) 陸 新	
在来線新駅舎 (JR西日本)	駅舎建築基本駅舎コンセプト イメーシ゛パース作成	▼・実施設計	建築工事	北陸新幹線金沢·	
駅前広場 (加賀市)	実施設計	₩前広	場工事(屋根施訂		仮駅舎撤去
高架下施設 (加賀市)	実施設計		高架下施設(勧及び駅前広場内		(他)

各施設の工事期間

【高架下都市施設】

工事期間:2021年度

~2022年度

【駅前広場】

工事期間:2020年度

~2023年度

※仮駅舎撤去2023年度前半

屋根施設建設2023年度後半

【在来線駅舎】

工事期間:2020年度

~2021年度

【新幹線駅舎】

工事期間:2019年度

仮駅舎

~2021年度

